

第2回 尼崎西宮芦屋港 港湾計画検討会 議事要旨

- 1 開催日時 令和2年8月18日(火) 13:30～14:30
- 2 開催場所 兵庫県農業共済会館 4F 会議室
- 3 出席者（敬称略、五十音順）
 - 石黒一彦 （神戸大学大学院准教授）
 - 今西珠美 （流通科学大学教授）
 - 魚谷憲 （近畿地方整備局港湾空港部長）
 - 檜原毅 （西宮海上保安署長）
 - 北田正広 （西宮市副市長）
 - 北本淳 （ひょうご埠頭株式会社代表取締役専務）
 - 桑田泰子 （神戸大学准教授）
 - 佐藤徳治 （芦屋市副市長） ※代理出席 長田技監
 - 竹林幹雄 （神戸大学大学院教授） 【会長】
 - 辰馬章夫 （西宮商工会議所会頭） ※代理出席 野島常務理事
 - 中村昭敏 （神戸運輸監理部海事振興部長）
 - 服部洋平 （兵庫県県土整備部長）
 - 正垣修志 （阪神南県民センター長）
 - 松本泰則 （尼崎西宮港運協会会長）
 - 森山敏夫 （尼崎市副市長）
 - 山縣宣彦 （一般財団法人みなと総合研究財団理事長）
 - 吉田修 （尼崎商工会議所会頭） ※代理出席 芝専務理事全委員19名中、代理を含め17名が出席 ※欠席委員2名
- 4 議事
 - 1) 第1回検討会の主要意見と対応方針について
 - 2) 長期構想の検討内容について
 - 3) 長期構想（案）について

5 質疑応答

○目標年次の示し方について

質問内容【質問者】	回答
<p>新長期構想は「大阪湾の KEY・PORT」をテーマに、大阪湾での存在感を出していくという思いは評価できるが、目標年次の30年後に、この内容しかやらないとなると、少し小ぶりで夢がないように思う。</p> <p>特に災害ガレキの話であるが、30年後も処分場所を留保したままでいいのかと思う。</p> <p>災害ガレキの処分場を位置付けるのが、短期間では難しいのであれば、目標年次の書き方を工夫して、当面は財政状況が厳しい折、控えめな構想である等の意思を示してはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【山縣委員】</p>	<p>本日の議論、次回の議論を踏まえ、港湾計画に落とし込む内容を先行的にするということで、目標年次については幅を持たせて対応したい。できるところはできるだけ早く行っていく構想である。</p>

○親水空間のネットワーク化について

質問内容【質問者】	回答
<p>親水空間のネットワーク化を構想しているが、現時点では各親水空間に横の繋がりができていない状況である。</p> <p>将来的にマリーナや海水浴場、公園等を横に繋げていくとう具体的な意思を示すべきではないか。</p> <p style="text-align: right;">【山縣委員】</p>	<p>親水空間のネットワーク化については、「阪神なぎさ回廊プロジェクト」において幾つかのコースを策定し、ソフト対策として、親水空間をつなぐ取り組みを実施・推進している。</p>

○長期構想のキーワードについて

質問内容【質問者】	回答
<p>長期構想のメインタイトルと、サブタイトルの内容が被っている。メインを補完するようなサブタイトルの方が良いのではないか。</p> <p style="text-align: right;">【鋤田委員】</p>	<p>再考する。</p>

○尼崎西宮芦屋港の現状について

質問内容【質問者】	回答
<p>資料3中段に整理されている「情勢変化を踏まえた尼崎西宮芦屋港の現状」における物流産業の項目に、尼崎の歴史的な貨物である鋼材についても記載頂きたい。生産拠点は無くなっているが、物流拠点は現在も残っている。</p> <p style="text-align: right;">【松本委員】</p> <p>地元の産業行動と深く結びつく歴史的な貨物は、強調しても良いかと考える。</p> <p style="text-align: right;">【竹林会長】</p>	<p>現状の貨物量から整理をしている。物流産業の項目に、鋼材を追記する。</p>

○道路ネットワークについて

質問内容【質問者】	回答
<p>新たに計画される浚渫土砂ポケットを活用して道路ネットワークの充実化を構想しているが、長期的な空間利用イメージのゾーニング(資料2,P73)を見ると、例えば高付加価値物流スポットは、尼崎港だけではなく鳴尾地区(西側)にも繋がっている。しかし、鳴尾地区への東西方向に対する交通の考え方は示されていないので、少し分かりにくいと感じた。</p> <p style="text-align: right;">【森山委員】</p> <p>兵庫県南部は、東西方向だけでなく、南北方向も道路は足りていないので、道路部局とも検討してほしい。</p> <p style="text-align: right;">【竹林会長】</p>	<p>道路ネットワークについては、今後フェニックス事業用地が分譲されることによる新たな発生集中交通を、現状渋滞している交通ネットワークで対応できるのかという課題がある。</p> <p>そこで本構想では、東西連絡道路を整備し、フェニックス事業用地からの発生集中交通を、西側の末広ランプで受けてはどうかと考えている。また、埠頭間が連絡出来て、さらに活性化するのではという発想で、今回提案した。</p> <p>また尼崎市で計画されている、(都)尼崎伊丹線の南伸計画と一体整備することで、交通課題の解消に向かえるのではと考えている。</p>

○環境・景観への配慮について

質問内容【質問者】	回答
<p>尼崎 21 世紀の森構想は、尼崎 43 号以南の 1000ha を構想した計画で、領域全体を森として再生していくという強い意志表示が兵庫県と尼崎市にあった。その中で、本構想では県が整備する尼崎 21 世紀の森公園の事だけが書かれている。</p> <p>尼崎 21 世紀の森が尼崎市民にとって唯一海を感じられる場所である。尼崎 21 世紀の森公園の東側を浚渫土砂ポケットとする場合、海を感じられる取り組みを検討してほしい。</p> <p style="text-align: right;">【森山委員】</p>	<p>尼崎 21 世紀の森公園は高い防潮堤で囲まれている状況で、親水空間の整備ではなく、公園内の高山から海が見える景観への配慮というご指摘だと認識している。</p> <p>浚渫土砂ポケットの埋立範囲は最大 25ha と構想しているが、全て埋める場合は、間に緩衝緑地を整備するなどの取り組みが考えられる。具合化していく段階で尼崎市と協議しながら、内容を詰めていきたい。</p>